令和4年度 奈良県立磯城野学校 学校評価総括表（年度末報告）

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画Ⅰ年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	衣食住について専門的に学び「生きる力」を培い、農業系・家庭系の未来のスペシャリストを育成する。 〈具体像〉 1　生徒が自己実現、進路実現できる力を育成する。 2　生徒の専門分野の知識・技能を伸張させる。 3　奈良県の農業科教育、家庭科教育の中核として、その実践・成果を発信していく。
年度重点目標	(1) 基礎的・基本的事項、専門的知識・技術の定着を図り、スペシャリストに求められる創造的な能力と実践的な態度を育成する。[職人技に支えられた授業] (2) 人権尊重の心をはぐくみ、基本的生活習慣を確立させるとともに、個々に応じた進路指導を徹底し、社会で自立できるための力を養う。[いじめ・体罰のない学校] (3) 生徒が輝ける場を設定し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、成就感や達成感を体得させることにより、自信と誇りのもてる生徒を育成する。[プロジェクトの推進] (4) 地域との交流を積極的に推進し、農業系・家庭系の専門高校としての総合力を広く県民に示し、本校の知名度の向上を図る。[魅力を感じる情報の発信]

1　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	磯城野高校は「実践型教育」により農業系・家庭系のスペシャリストを育てる学校です。 本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ①笑顔の絶えない生き生きとした生徒＝「和顔」 ②がまん強く最後までやり遂げる生徒＝「堅忍」 ③新しいものに積極的に取り組む生徒＝「創造」
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	【全科共通】 ①各専門分野における資格取得に加え、就職や進学など多様な進路希望に対応できるよう、柔軟な教育課程の編成を行います。 ②第３学年に「課題研究」を設定し、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につけさせます。 ③専門科目では、少人数指導並びにチームティーチングを導入し、きめ細かい個別指導を行います。 ④学校外のスペシャリスト（大学講師など）の授業を導入し、より実践的な知識・技能を修得させます。 【農業系学科】 ①学科の特色を生かし、専門性に沿った進路に対応するためにコース制をとり、学校設定科目の導入や、学科間連携による選択科目を設定します。 ②各専門分野における資格取得・検定合格につながる知識・技能を修得させます。 ③学校農業クラブ関係の各種発表会・競技会参加に対応するために、実習とプロジェクト学習とを有機的に結びつける工夫を行います。 ④模擬株式会社の運営を通して、生徒が自ら企画し、実践する応用的・発展的な力を養成します。 ⑤３年時に、科目「総合選択」を設定し、学科の枠を越えた学習を行います。 【家庭系学科】 ①学科の特色を生かし、幅広い専門性を身に付けるため、特色に応じた学校設定科目を導入します。 ②フードデザイン科は厚生労働省の認可施設（認可基準を満たす施設）になっており、調理師免許取得・製菓衛生師受験資格取得につながる知識・技能を修得させます。 ③ライフデザイン科（ファッションクリエイト科）はデザインと縫製を中心に学習し、ファッションを表現する知識と技術を養成します。 ④ヒューマンライフ科は学校での学習だけでなく、高齢者施設や幼稚園での実習を行い、実践力を養成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1　専門的知識・技術を獲得し、スペシャリストに求められる創造的な能力と実践的な態度 2　自らの将来を切り開いていく態度及び社会で自立できるための力 3　生徒が活躍できるプロジェクトを設定し、成就感や達成感を体得することによる、自己肯定感の醸成 4　生徒会活動・部活動並びに地域との交流の積極的な推進による、コミュニケーション能力の向上

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康教育の充実	保健だより、食育新聞を学期に各１回以上発行する。	保健だよりを学期に各１回以上、食育新聞を年間1回以上発行する。	保健だよりを学期に１回、食育新聞を年１回発行することができた。	継続的に取り組んでいき、健康に興味関心を引く機会をつくっていきたい。		
		生徒対象のアンケート項目「本校は健康や安全に関わる指導に積極的に取り組んでいると思いますか」で肯定的回答を９０％以上にする。	生徒対象のアンケート項目「本校は健康や安全に関わる指導に積極的に取り組んでいると思いますか」で肯定的回答を85%以上にする。	1学期のアンケートにおいては87%であった。	体育だけでなく、危険を伴う実習をおこなっているために、高い水準になっていると感じる。		学年が上がるにつれて増えていくように、日頃から授業で取り組んでいく。
	食育の推進	食育に関心がある生徒の割合を７０％以上にする。	食育に関心がある生徒の割合を７０％以上にする。	食育に関するアンケートを取ることができなかった。	食育という言葉をもっと浸透させていき、特に朝食を食べる習慣に繋げていくため、次年度は必ずアンケート調査を実施する。	まず現状分析のためにアンケートを実施すべきである。	校内への掲示物などを増やし、食育について関心を持つ機会を増やしていく。
		朝食を毎日食べる生徒を９５％以上にする。	朝食を毎日食べる生徒を７０％以上にする。	1学期のアンケートにおいては60%であった。	1学期だけでなく、学年末にも経過観察としてアンケート調査を行っていく。	早朝の０時間目授業があるので、朝食を摂っていない生徒も多いのではないかと思う。	教科担当に加えて、SHRなど機会を見つけて、担任からも意識向上に協力してもらう。
	体力の向上	体力テストにおける、合計点を県平均の９５％以上にする。	体力テストにおける、合計点を県平均の９０％以上にする。	合計点において、県の平均値は示されていないが、本校の平均が４４点と低い値であった。	点数は低いが、学年が上がるにつれて得点は伸びている傾向にあるので、継続して取り組みたい。	生徒を見ていると体力がありそうな印象を受けていたが、体力テストスコアが悪いと聞いて驚いた。是非、対策をしていただきたい。	女子生徒の運動部への加入を増やしていく必要がある。
2．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現	生徒対象の授業アンケートの関連３項目で、肯定的回答をいずれも９０％以上にする。	生徒対象の授業アンケートの関連３項目で、肯定的回答をいずれも80%以上にする。	「積極的に授業（実習）に参加している」「授業に満足している」「この授業で力が付くと思えるか」の3項目の肯定的回答平均は65%であった。	実習系授業の肯定的回答が高く、座学系が低いので、生徒の実態を踏まえ、授業に向かうモチベーションを高める工夫が必要である。	磯城野高校の教育に対する生徒・保護者の満足度が高いことがうかがえる。そういった教育内容を維持するため、先生方の研修等自己研鑽に充てる時間が確保しにくい状況にあるのではと推察する。時間の確保は難しいが、ICTの活用など今後の教育の進め方の変化に備え、研修の進め方についても検討いただきたい。	生徒の実態を踏まえ、座学の授業にも参加体験型の学習方法を導入していく。
	教職員の資質向上	年度内２回学習指導研究月間を設定し、１人10回以上の授業見学を行う。	年度内２回学習指導研究月間を設定し、１人6回以上の授業見学を行う。	年度内２回学習指導研究月間を設定はした。中には20回以上の授業見学をした教師もいたが、全体では低調である。	各先生方の時間割を調整するなどの工夫に加えて、お互いの授業を見学することにより、より良い授業を創っていく風土を形成する必要がある。		来年度は授業見学記録の提出を義務づける。
		教育研究所等の研修に全教員が年間3回以上、参加する。	教育研究所等の研修に全教員が年間１回以上、参加する。	研修に積極的に参加する教員とそうでない教員の差が激しかった。	教師にとって「学び続けること」の重要性を周知し、研修時間を確保するような業務の見直しをはかる。		粘り強く様々な研修の重要性を周知していく。
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	生徒・保護者対象のアンケート項目「本校には、他の学校にはない特色がありますか」で肯定的回答９５％以上にする。	生徒・保護者対象のアンケート項目「本校には、他の学校にはない特色がありますか」で肯定的回答80%以上にする。	１学期のアンケートにおいては95%であった。	目標値を達成できた。生徒・保護者から、本校の特色を理解されていると感じる。		継続して取り組みたい。
	ICTを活用した教育の推進	全ての科目でICTを活用した授業を導入する。	1年生の全科目と２・３年生の50%の科目でICTを導入した授業を導入する。	1年生では全科目でICTを導入することができた。	電子黒板を使った授業は定着し、学習効果も高まっている。		次はBYODをさらに効果的に活用する方法を考えていかねばならない。
		「教員のICT活用指導力」の調査における、肯定的回答９０％以上にする。	「教員のICT活用指導力」の調査における、肯定的回答85%以上にする。	肯定的回答は９０％であった。	活用指導力には、教師の個人差が大きい。全体研修よりも、個人的に教え合う雰囲気と時間の余裕をつくっていく必要がある。		ICTを活用した授業を積極的に見学できるような体制をつくる。
	学校における働き方改革	月１度の定時退校日を設定する。	学期の１回以上の定時退校日を設定する。	長期休業のない月で各1回、定時退校日を設定し実施した。	職員の働き方改革の観点から来年度も取り組みたい。		そのための業務の見直しも行っていく。
		ストレスチェックにおいて職場におけるストレス値の平均を９５以下にする。	ストレスチェックにおいて職場におけるストレス値の平均を105以下にする。	平均値が大幅に下がり、88となった。	職員一人一人が快適に仕事に取り組むことができるよう環境をさらに整備していきたい。		今後も低ストレスの職場になるよう取り組みを進める。特に協働的な組織をつくる。
	安全安心な教育環境の整備	毎月の安全点検を実施。発見された不具合の箇所を速やかに修復する。	学期に1回の安全点検を実施。発見された不具合の箇所を速やかに修復する。	毎学期に１回安全点検を実施し、報告された不具合の箇所は速やかに修復した。	安全点検が形骸化しないように常に点検の意義を確認し、生徒が安全に学校生活を送れるようにする。		今後は毎月、点検用紙を配布し、指摘箇所に対応する。
		各学期１回以上、避難訓練等を実施する。	年間２回以上、避難訓練等を実施する。	１学期と3学期に実施した。3学期は悪天候のため、地震発生時の初期対応のみとなった。	本校は放課後の実習授業が多く、悪天候用の予備日設定が難しい。何とか調整して予備日も設定していく。		避難訓練の内容の見直しも進めていく。

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育・職業教育の推進	キャリアパスポートを活用し、全生徒が具体的にキャリアデザインを描くことができる。	目標を達成するための具体的手立てを計画し、明文化する。	現時点で具体的手立ては明文化はできていない。	来年度は全生徒がキャリアデザインを描けるよう新しい試みの導入を検討している。	働く意欲の醸成については、既にその業界で活躍している方々の話を聞くことが重要。そのような機会創出をNAFICが協力させていただく。	年度末に向けて、本校の現状を抜本的に検討し、計画・明文化していきたい。
		全生徒の７０％がインターンシップを経験する。	インターンシップ参加者比率を全体の40%に近づける。	数的にはのべ60名と昨年度を上回ったものの達成率は目標値に及ばない25%であった。	インターンシップの意義と有効性を説明し、希望者を増やしていく。またインターンシップ協力事業所をさらに拡大していく。		今後の冬期および春期のインターンシップにおいて、参加比率を高める働きかけを行う。
		職業観の醸成を図るためのガイダンスを各学年１回以上開催する。	職業観の醸成を図るためのガイダンスを各学年１回以上開催する。	各学年2回以上開催することができた。	来年度も本年度と同様にすすめていくが、職業観が醸成できたかどうかの検証も行っていく。		検証方法を考えていく
	社会に役立つ実学教育の推進	生徒対象の授業アンケートにおける実習関連２項目で、肯定的回答をいずれも９０%以上にする。	生徒対象の授業アンケートにおける実習関連２項目で、肯定的回答をいずれも80%以上にする。	「積極的に実習に参加している」「この授業で力が付くと思えるか」の２項目の肯定的回答平均はは97%であった。	本校の生徒は実習が好きで積極的に取り組んでいる。今後は実習を通して今まで以上の力をつけさせる工夫をしていく。	外部の機関との協働事業は生徒にとって、貴重な体験となっていると考える。磯城野高校の生徒と「味間イモスープ」の開発をしたが、その真剣さや集中力は高校生とは思えないほどであった。次年度以降も継続していただきたい。	今後も継続して取り組みたい。
		専門教科において、校外授業、社会人講師による授業を各学期１回以上実施する。	専門教科において、校外授業、社会人講師による授業を各学期１回あるいは年間3回以上実施する。	教科によって、実施回数の多少はあったが、ほとんどの教科で年間3回の校外授業、社会人講師による授業を実施した。	コロナ感染対策と調整しながら実施したが、次年度以降さらに緩和されていけば、もっと校外授業を増やしていく。	コロナ禍であったので、以前のように地域に農産物を販売したり、祭礼に参加することが減ったと思うが、感染が収束に向かっているので、地域活動への参加をお願いしたい。	
４．地域と協働して活躍する人を育てる	地域との連携・協議推進	地域学校協働活動を１０事業以上設定する。	地域学校協働活動を８事業以上設定する。	10事業の地域との協働活動を行った。	来年度もさらに多くの事業所と協働活動を行っていく。数だけでなく、生徒の成長に繋がるような内容にしていく。	小学生との交流を通して、磯城野高校の生徒が成長していく様子を見ることができた。先生方の教育に対する熱意を感じる。	目標値を上方修正していく。
	地域社会に貢献する人材の育成	地域学校協働活動に全生徒の５０％以上が参画する。	地域学校協働活動に全生徒の３０％以上が参画する。	現状では20%程度の生徒が参加している。農業クラブ・家庭クラブ・生徒会が活動の中心である。	学校運営協議会で、現状以上にどんな活動が可能かをさらに考えていく。	小学校だけでなく、中学校との交流もすれば、磯城野高校の魅力を発信することができる。	目標が達成されるよう取り組みたい。
	グローバル人材の育成	全生徒の１０％以上が実用英語検定を受検する。 海外の学校との交流事業を推進する。	全生徒の５%以上が実用英語検定を受検する。	本年度の目標は概ね達成できた。授業も英検に対応する内容で進めてきた。	来年度は授業改善し、更に受験者と合格者を増やしていきたい。		年度末に向けて、更に受験を促し指導を進めていきたい。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校教育における人権教育の推進	保護者対象のアンケート項目「生徒に人権を尊重する態度を身につけさせようとしていると思いますか」で肯定的回答９５%以上にする。	保護者対象のアンケート項目「生徒に人権を尊重する態度を身につけさせようとしていると思いますか」で肯定的回答85%以上にする。	7月に実施したアンケート結果において、肯定的回答が８０％であった。	毎月11日の人権の日等を利用して、保護者の方にも伝わるような取り組みを継続的に実施する必要がある。		「わからない」との回答が15%であったため、本校の教育活動の周知が必要であると考えられる。
	いじめ・不登校等への対策	生徒対象のアンケート項目「本校の先生方は、いじめなどのない楽しい学校づくりに努めていると思いますか」で肯定的回答９０%以上にする。	生徒対象のアンケート項目「本校の先生方は、いじめなどのない楽しい学校づくりに努めていると思いますか」で肯定的回答80%以上にする。	7月に実施したアンケート結果において、肯定的回答が78%であった。	毎月11日の人権の日等を利用して、保護者の方にも伝わるような取り組みを継続的に実施する必要がある。	保護者の立場として、いじめ・不登校の件は気になるが、他の学校に比べると少ないというイメージを持っている。 人権教育やいじめ・不登校の対策等への取組により、生徒・保護者の理解が進んでいるように感じる。	「わからない」との回答が7%であったため、本校の教育活動の周知が必要であると考えられる。
	特別支援教育の推進	教育相談委員会・特別支援教育推進委員会を各学期１回以上開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、個別支援計画を作成する。	教育相談委員会・特別支援教育推進委員会を各学期１回以上開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有する。個別支援計画の統一した様式を作成する。	特別支援教育推進委員会を2回、臨時ケース会議を1回実施し、支援を要する生徒について、教員間で情報共有をした。個別支援計画については、教育委員会で統一した様式を作成することになったため、本校で様式を統一する必要はなくなった。	生徒および保護者が求める支援が多様化・複雑化しているため、教員間での情報共有を丁寧に行う必要を感じた。より確実に情報共有を行うために、個別支援計画の様式が統一され次第、教員に周知・活用していく。		研修等を利用してその統一様式を理解し、本校教員への周知を図る必要がある。
	多文化共生教育の推進	多文化共生に関するHR・講演会などを各学年１回以上設定する。	多文化共生に関するHR・講演会などを各学年１回以上設定する。	人権を考える全校集会を10月に実施し、在日朝鮮人についての学びを深めた。また、それに関連して、12月には外国人差別について学ぶホームルームを実施した。	ワークシート等も活用した指導案を立案し、生徒の学びを深めた。人権を考える全校集会においても、肯定的な意見が非常に多く、生徒に多文化共生を意識させる良いきっかけになったと感じる。		継続して取り組んでいく。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

保護者アンケートの結果、「子どもを磯城野高校に入学させて良かったと思いますか」の問いの回答は、全体で「Aそう思う」が72.2%、「Bどちらか言えばそう思う」が24.8%、計97%であった。学年別では1年生A72.9%　B24.9%、２年生A70%　B27.9%、３年生A82.2%　B12.1%となり、3年生で特に評価が高くなっている。本校の教育活動の内容が理解され、成果も感じることが最終学年でできているようである。生徒アンケートの結果、「本校に入学してよかったと思いますか」の問いの回答は、全体で「Aそう思う」が55.2%、「Bどちらか言えばそう思う」が30.5%、計85.7%であった。学年別では1年生A68.4%　B25.9%、２年生A46.5%　B33.2%、３年生A48.7%　B33%となり、１年生で一番評価が高くなっている。今後も経年変化を見ていく必要はあるが、学年進行とともに評価を上がっていくようにしなければならない。
その他にも、各種エビデンス（保護者アンケート、学校生活アンケート、授業アンケート）の数字を各部署で分析し、次年度の目標値算定（C）、また計画期間における具体的目標（B)の見直しに繋げていく。